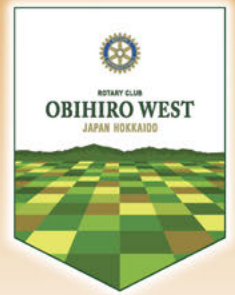


ロータリー
変化をもたらす

帯広西ロータリークラブ 第2200回例会 2017.10.19 会報



■RI第2500地区テーマ■

今こそ行動を！
クラブが元気になるために
地区が元気であるために
そして 私たちの未来のために



■クラブ・テーマ■

積極的に奉仕し、成長しよう

会長報告

石原英樹 会長

皆さんこんにちは。先日開催されました地区大会、成瀬ガバナーよりお礼状が届いております。1,150余名の参加をいただきましたと言うことです。



ロータリーの友10月号、ライズリー会長メッセージと、私のパソコンに「ロータリー世界ポリオデー」の項目がありました、ライブ中継が日本時間、25日午前6:30から配信されるそうです。今年で5回目となるイベントで、ビル&メリンダ・ゲイツ財団と共催で行われ、ゲイツ財団本部(米国:シアトル)から世界にライブ発信されます。ポリオ撲滅に向けた進展を専門家や著名ゲストと共に確認し「ポリオのない世界」実現へ決意を新たにします。世界各国でそれにちなんだ募金やイベントが行われるそうです。日本でも数か所行われます。

さて、頭の体操・言葉遊びをします。「子子子 子子子 子子子 子子子」なんと読むでしょうか? 「子」をどのように読むかがポイントです、「こ」の他に「ね」「し」「じ」などと読み、音読み・訓読み組み合わせる中で「の」を二回入れて読みます。答えは「ねこのこ こねこ ししのこ こじし」(猫の子 子猫 獅子の子 子獅子)です。

これは、13世紀ころに成立した説話物語「宇治拾遺物語」に出てくる、日本で一番古いといわれる言葉遊びです。時の天皇(嵯峨天皇)が「難解な言葉でも何でも読むことができる」という臣下(小野篁)に対して出したなぞなぞであり、見事正解した臣下(小野篁)との信頼関係が、いっそう深まったという逸話のこっているそうです。

疲れを感じたとき、首や肩を回したりしますが、このような言葉遊びで頭を回転させるのも、脳の疲れを取るのに有効だそうです。



会務報告

萱場誠一 幹事

- ①帯広北RC、移動例会開催のご案内
日時 10月20日(金) 午後0時
場所 北の杜(帯広の森内)
- ②帯広南RC、10月23日(月)の例会は、休会と致します。
- ③帯広東RC、夜間移動例会開催のご案内
日時 10月24日(火) 午後6時30分
場所 幕別パークホテル悠湯館
- ④帯広西RC、夜間例会開催のご案内
日時 10月26日(木) 午後6時30分
場所 北海道ホテル
- ⑤帯広東RC、10月31日(火)の例会は、休会と致します。



ニコニコ献金

近藤真治 会員

茨木 雅敏 国際奉仕委員長

本日、国際奉仕委員会の担当例会です。宜しく願いいたします。



古田 敦則 会員

ホールインワン記念コンペをしていただき、多くの方々にお祝いしてもらいました。ありがとうございます。

飯田 正行 会員

先日の古田さんホールインワン記念コンペで優勝させていただきました。シーズンの終わりにがっちり稼がせていただきありがとう御座いました。これからは古田家に足を向けて寝ることが出来ません。古田さん、またホールインワン期待しています。

内海 仁司 会員

古田会員のホールインワンコンペで古田賞(13万円相当の羽毛布団)をいただきました、早速カミさんが使っております。ありがとうございました。



会長 石原 英樹
幹事 萱場 誠一

副会長 佐々木嘉晃
副会長 小谷 典之

会場監督理事 立崎 貴之
プログラム委員理事 北川 勝啓

発行：広報委員会
委員長 柳沢 一元 (副)河西 智子



例会日/木曜日 12時30分~13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル4階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033

上野 裕司 会員

先日古田会員のホールインワンコンペで準優勝しました。大変ラッキーで感謝です。

ニコニコ
献金

10月19日

10,000 円

累 計

265,015 円 (10月19日現在)

◆プログラム

国際奉仕委員会 茨木 雅敏 委員長

こんにちは。本日は国際奉仕委員会の担当例会となっております。

それでモンゴルとの交流の始まりと流れということで岡田会員に卓話をさせていただく事になっておりますけれども、その前に少し私の方からお話をしたいと思います。

今年度、国際奉仕委員長を背任するにあたり、最初に考えたのが地区の補助金を使って何か事業ができないかという事を考えました。これは前年度より私はロータリー財団の監査委員に入っておりますので、前年度相当この地区の補助金が余った状態でしたので、何とか通るのではと思い申請しました。そうしたら、色々啓蒙したのか、件数が多すぎて、若干当初より予算を減らされましたが、補助金の申請がございました。そこで、この新補助金ですが、2013年-2014年に未来の夢計画という事で世界に良いことをしようというロータリー財団の標語の元に以前の地区補助金が簡素化されて新補助金という事になりました。この補助金ですが、毎年の年次寄付が財団によって3年間運用されます。そして3年後寄付金の50%が地区に還ってきます。そしてその50%の半分が新補助金という事で使われることになっております。

これは以前と比べると地区レベルで運営管理を行うという事で非常に簡素化されております。

当クラブの国際奉仕事業ですけれども2006年-2007年度岡田会長、越智幹事、その当時の国際奉仕委員長が川田会員ということでモンゴルへの国際奉仕活動について模索を提言したことが始まりとなっております。その次の2007年-2008年度、私が会長、三宮さんが幹事、山本国際奉仕委員長、この時に小林志歩さんが代表を務めますハイルハンバグ子ども応援奨学会の会、これを通してのモンゴルへの寄付が始まっております。それ以降前年度まで継続しております。

そこで今回提出した補助金の申請書ですが、名称をモンゴルの子供を支援・奉仕事業ということで来年の4~5月頃を予定しております。その内容は合計金額、財団の補助金とクラブの予算と合わせて30万ということで2つの学校でウランバートルの第12学校、トロトソムの学校に本とか体育用具とか、これは学校の方で決めていただくのですが、寄贈する予定となっております。

ということで今日のお話ですが実際2008年当時の会員数は68名で、今年度は73名になっており、5名しか変わらないと思うのですが、実際はこの間、新入会員が30名ほどおります。ということは会員の半分弱はこのモンゴルの事業についてあまり流れを知らないということになりますので、国際奉仕事業の理解を深める事と継承ということでこの活動のど真ん中にいた岡田会員にお話を聞ければと思っております。

それでは岡田会員よろしくお願ひします。

【会員卓話】 岡田 武稔 会員



みなさんこんにちは。今、国際奉仕委員長の茨木さんから色々説明がありましたが、全くその通りでございます。2006年-2007年度の時に僕が会長で、副会長に尾藤さん、鈴木さん、それから幹事が越智さん、国際奉仕委員長が当時川田章博さんということで、当時の活動計画書を持ってきましたので読んでみたいと思いますが、<今年度は僕の方針の中に今年度は国際奉仕に少しだけウエイトをおいたプロジェクトを組んでみたいと考えております。大きな事業でなくても実感をもって奉仕という実態を感じ

ながら行動をすることが大切だと思います。>という事で、会長方針を打ち出したところで川田国際奉仕委員長がその委員会活動の中で今年度の活動方針は将来の特定国家との交流に的を絞り、その調査研究を行い当クラブが外国と継続して行う交流については既に帯広畜産大学が交流のあるアジア圏の国々の中から特にモンゴルへの国際奉仕活動について模索をしてみたいという川田さんの方針に基づいて実はモンゴルとの関わり合いを持ったわけでありました。

そのことよりもモンゴルという事について、簡単にモンゴルの諸々について色々お話ししてみたいと思います。



これはモンゴルの地図ですが、この線の中がモンゴルです。首都のウランバートルというのはここにあります。真ん中よりも少し東によっている所です。モンゴルは南は中国、北は全部ロシア、一部カザフスタンと接しております。

正式なこの国の名前はモンゴル国となっております。面積は日本が37万8000km²でモンゴルはその4倍、156万6000km²で日本の4倍くらいの広さがあります。2016年度の人口は302万強。政治体制は大統領制をとっております。1990年に社会主義国家から議会制民主主義に移行しまして、今は民主主義社会、一院制という政治体制をとっております。

この国ですが、人口密度が非常に驚く事なのですが、世界の人口密度が一番はマカオで23,332人、これは1km²あたりの人口密度です。日本は何人かという日本と割ると335人、1km²、ですから1km四方の中に335人が住んでいるところ。世界で約25番目になります。そこでモンゴルは何位かという、これは最低で一番下です。189位、世界で言うと、人口密度はどれくらいかという1.93人、ですから1km四方の中に2人住んでいないという事ですね。だから帯広なんかはモンゴルが156万6000km²、北海道は8万3,456km²ですからその大きさがだいたいわかると思います。

この国の宗教ですが主にチベット仏教が殆どです。それから西の方へ行くとイスラムの信徒が信仰している人たちが随分いますが、平均してここによくあるのはシャーマンという祈祷師ですね。祈って何かを決める。移動するときに占い師に占ってもらって次の所行くという事を決める。そのようなシャーマンですね。シャーマニズムというものが随分、各家族の家庭の中に浸透しているように思いました。

それでモンゴルの通貨なのですが、これは私の紙幣なのですが、だいたい大きな通貨なのですが、貨幣の呼び方はトゥグリックと言ひ、2万トゥグリックから1トゥグリックまでだいたい全部で10種類の紙幣があります。これはもちろん日本に持って帰ってきてても、日本のどこでも円に換えることが出来ません。

民族構成ですがだいたい75%がハルハ族という部族です。その他にカザフ族、モンゴル少数民族などが住んでおまして、民族的にはこんなに大きい国の中ではあんまり沢山の多民族化という事では無いように思いました。

モンゴルには2つの世界遺産があります。一つはハラホリンというところですが、そこは複合遺産となっております。それは文化遺産と自然遺産。それからもう一つはウブス湖という、すごくきれいな湖なの

ですが、これは有名な塩の産地です。これは本当に良い塩です。これで、しめサバだとか今のイワシなんかをこの塩の塊を粉にして作った味なんかは、もう普通の塩化ナトリウムの市販されている塩とは全然違う塩ですね。これは、今の世界遺産になっている所の湖の中で取れる塩です。

国内が広いので、移動するには必ず飛行機を使わないと、何百キロ、400キロくらい走ってもたまたま人に会うくらいですから、行くときはプロペラ機の飛行機で行くのですが、滑走路もないですし、砂漠を踏み固めたようなところにけむりをもうもうとあげて、そして行く。そして僕らが降りたあと、そこら辺から人が集まってきて、飛行機に乗って、煙を上げてまた次の所へ。

もう一つ、モンゴルは非常に広いですね。僕らが行ったところからはかれこれ10年経っていますので、道路も、特に日本の朝青龍、旭鷲山、こういう人たちはモンゴルに帰ると、旭鷲山は国会議員になって、そして大統領の補佐官を務めていたということで、それから朝青龍はモンゴルのウランバートルにあるサーカス、これはロシアのサーカスなのですが、ポリジョイサーカスが赤字になったとのことで、現金を出して、朝青龍がウランバートルのサーカス小屋を買ったという事で話題になったそうです。

それからこれはこの写真ですが、これは塩湖ですね。塩の湖で非常に塩分濃度が高く、私が前に行った死海で33%が塩分濃度なのですが、この辺の太平洋沿岸は3%の塩分濃度だそうですが、死海が33%、ここは50%の塩分濃度があるんですね。従って水を飲みに来た鹿がこの水を飲んで死んでしまうという風景はいたるところにありました。

この写真もその途中の風景なのですが、もう見渡す限り、今日どのくらい走るんだと聞いたら400キロと言って道なき道をロシア製のスプリングの悪い車でもうもうと走って、こういうところを走っていくんですが、たまにこういう人たちに会うこの羊だとかヤギだとかと会うのもほとんど稀で、あとはもうほとんど人に会う事はありません。

それから、もう一つの湖でこれはフグスグル湖という湖です。これはウランバートルから1200kmくらい、ハトガルという部落の所から行った湖なのですが、これは琵琶湖の10倍の大きさ。私たちが修学旅行に行ったら、バスガイドさんが案内してくれるのですが、琵琶湖は滋賀県と大阪と京都が40年間、一滴の雨が降らなくても、この水で生活ができるくらいの水の量だというのは、このフグスグル湖は琵琶湖の10倍あります。これは衛星放送から入口のところなのですが、ここから約400キロ北へ行ったところ、これ

がフグスグル湖です。これはバイカル湖です。これはさらにバイカル湖はフグスグル湖の10倍ですから、琵琶湖の100倍あるという事ですね。この辺へ行くと皆さんテレビなんかで見たことがあると思うのですが、例の世界で一番寒かったというオイミヤコンという部落があって、そこが今まで記録された最低気温がマイナス72度まで記録されています。このハトガル、フグスグル湖の辺りは冬は非常に寒くて氷が5mくらいの氷になるそうです。そしてトラックなどが木材を運ぶ時などはそのトラックが氷の上を走っても大丈夫なので、その時期だけそこを通過して木材を搬出する、そういう様な場所だそうです。ところが最近その車から出る油などで湖が汚れるという事で、かなり制限をされているそうです。

それからフグスグル湖まで行くと夜になると遠くでオオカミが吠えます。オオカミは何という種類なのかと聞いたら、シベリアオオカミだとか森林オオカミ、それから灰色オオカミという3種類位いるらしいです。それで日本では1905年に奈良県でニホンオオカミが最後に発見されて以来、日本ではオオカミは動物園で飼われているものは別として、野生しているものは撲滅したといわれておりますが、まだ、この北の方に行きますと、遠くで遠吠えをしております。そして、この土地は1mほると氷です。永久凍土ですね。私は三回くらいしか行ったことがないのですが、日中7月なんかに行くと、日中は短パンでよいのですが、夜になるとしんしんと冷えて火を焚かないと全然寝れない地区です。モンゴルの中でも特に寒い地区です。

それから、モンゴルで有名なのはゴビ砂漠です。これは世界で一番美しいのはアフリカにあるナミブ砂漠ですが、それに次いできれいなのがゴビ砂漠です。中国の国内にあるタクラマカン砂漠というのは俗にいう岩砂漠です。これは本当に砂の砂漠。非常にきれいな砂漠と言われております。

もう一つ最後になるのですが、よく蒙古斑という言葉をよく聞いたことがあると思うのですが、赤ちゃんが生まれるとお尻に斑点ができる。これはモンゴル人と日本人だけだそうです。

モンゴルという国は非常に親日的で日本人を見ると片言の日本語で話しかけてきてくれて、日本の製品はスゴイ、日本の車の(若林さんは。?)、日本のトヨタランドクルーザーベリーグッド、ヒュンダイ、ノーグッドという風に言うから、タクシーなんかもベコベコになって故障しているのは大抵ヒュンダイと言っていました。

それからノモンハン事件というのがありましたね。日本帝国が北進している時にロシアが鉄道建設などで南進をしてきた時に小競り合いがあって、そこで衝突が起きて、シナ事変になって、そしてそれが太

平洋戦争へと結びついたという因縁の土地です。ここにも行きましたが、ここには飛行場が無いので3日かかりました。

それからモンゴルで思い出すのは7月11・12・13日を中心にして行われるナーダムというお祭りですね。ナーダムスタジオという天井がないところで5万人も入るので、弓と相撲と競馬のモンゴル大会があるんですね。モンゴル相撲も土俵が無くて頭に帽子をかぶって、膝と肘と手は付いても良いんですが、肩と頭が付いたら負けというもので、時間制限はなくて広いところで延々とやっていて、長い取り組みだと3時間も戦っているというものです。世界各地からも取材に来ていて有名ですので、もしモンゴルを訪れることがあれば7月10日過ぎに行ったら是非見ていただくと良いです。朝青龍のお父さんもこのナーダムの相撲のチャンピオンだそうです。競馬の場合はスタートからゴールまで70kmあるんですね。それをゼッケンをつけて地平線の向こうから砂が上がってくるんですね。それは70kmもありますから、途中馬がへたったり、膝ついたりなどゴール寸前でもそういう馬が沢山いました。

あとはモンゴルは金持ちはすごく金持ちで、モンゴルのウランバートルでこの間行ったときにメーキャップをしたんですが、その時に私が挨拶をすれという事で挨拶をしたのですが、その時に小林さんに通訳してもらったのですが、僕は魚が好きという事を話したら、挨拶終わったら、男の人が来て『お前何cmある?』って聞かれて『164cmです』って言ったらお前くらいのイトオが釣れるかもしれないって言って、そんなに大きな魚がこの辺にいるのか?って聞いたら、この辺にはいないって、そこに行くには俺の持っているヘリコプターで行くから、今度来た時に是非知らせてくれと言われてました。後で、小林さんに聞いたら、そのロータリアンは国会議員だとかモンゴルを代表する企業の社長だとかのメンバーの集まりだということでした。その頃は3つくらいだという事でしたが、今はロータリークラブは10くらいになっているとのことでした。

はい、そういう事でモンゴルは日本の国の4倍くらい、今日の話聞いた中で一つでもわかってもらえればと思います。

緯度は47度33分くらいですから、稚内の真ん中くらいの緯度です。ところが雪はそんなに降らないのですが、寒さはマイナス40度くらいという1月の平均気温ですから寒いんですね。ですので、その時期に行っても何も見ることもできないですし、氷の中みたいだと思います。

下手な話でしたが、茨木さんに命令だということ、元ガバナー補佐にいわれてお話しさせていただきました。ありがとうございました。